

再発見 one play

play（遊び）の一つであるラグビーの面白さについて考えました。

THE RUGBY DICTIONARY by JIM WEBSTER に次のように記述されています。

RUGBY: A past time of delitions enjoyment, much story-telling, plentiful drinking and occasional singing disturbed only by 80 minutes of often pointless end eavour on a strip of barren earth.

200 年程にわたって多くの人達がラグビーを楽しんできました。人生における大きな楽しみを与えてくれたラグビーに感謝しなければなりません。遊び play には劇・芝居という意味もあります。人間が身体を使って演じるものであり、舞台とグラウンドという違いがありますが、身体で自己表現するという点では共通するものをもっています。活力ある社会のエネルギーと、若者の社会への活力具現という働きのために、人間形成の望ましい過程としても親しまれ、プレーの展開の継続と変化と意外性は実にドラマチックなものであることも含めて広く愛されて発展しました。

自動車のハンドルに昔は「遊び」がありました。それは常識でしたがステヤリングになってから死語になりました。ハンドルを回しても5度程は直に効きませんでした。この場合の遊びも英語では play といいました。人生にも遊びの要素は大切なものです。遊びには人間が生きていくということから、「少し離れた時（間）」を持ち行動するという内面があり客観性が熱情と共生しています。「たかがスポーツ、されどスポーツ」と言われるように、人生からの「間」は、他人への思いやり、勝利至上主義への反省とゆとり、向上への柔軟な発想などが源泉となって置かれるものです。スポーツを賢明に楽しむという課題に対して、ラグビーを楽しむという視点から考察を深めましょう。

「play」という言葉が興味深い使われ方をする場合のことを2~3考察したいと思います。

一つ目は、外国のチームのゲームにおいて双方のロングキックが数発ずつ続くことがあります。その間はタッチにもならない空白時間ではなく、大きなキックを競い合う遊びの時間だと知って納得し遊び心・楽しむ心に感心したことがありました。

二つ目は、up and under です。NZ のチームがゲームで時間的中間にグラウンド中央でハイパントを上げて、落下点に集結してボールを再び確保し、新攻撃のスタートとする意識的プレーとしての one play です。「遊んでいる」というのですが、この間をとる one play はチーム全員の意志を新しい攻撃に統一する狼煙・合図の重要な働きのある「間」であるということです。

三つ目はゲームの波作りです。全力で戦うといってもトップの状態を維持するのは至難です。そこでゲームの4分の3（three-quarter）に攻撃総合波の頂点をもってくるゲームづくりも楽しみ方は「間」（遊び）の取り方で一本調子に対する楽しんで勝つ方法で、必死とか全力とかいうよりも現実的で有効だということです。先のロングキックとは広い意味で共通するものがあります。

プレーする楽しみは、個人からチームへと広がり、試合をする楽しみとつながります。そしてそれは match 試合い仕方にもよるものです。試合は勝敗を決めるという一面と、チームとして表現する場であるという一面があります。試合 match には、相手。匹敵するものとか釣り合うものという意味があります。試合はお互いに相手を認めて戦うということが基本にあります。そして特定のを test match として重要視しました。対抗形式とトーナメント形式を比較しましょう。対抗戦は両方の内容と働きがありますが、トーナメントにはそれが無い順位を決めるのが主目的です。対抗戦は認め合う相手と相談して約束してある時期に試合を楽しむものです。勝敗を争うと同時に相手に対する自チームの自己表現です。毎年定期的に行うことにより伝統を守り歴史を大切にチームを維持する効果があります。W 杯はトーナメント方式で世界一を決めるものです。実施が本格的にきまる以前のことで、イングランドの老ラグーたちは反対でした。トーナメントでは勝ち残ることが至上課題で試合の内容より重要視される傾向があるからです。競技に誇りを持っていてからで、RFU100 周年記念式以前は絶対に行われないと考えられていた。しかしその会から実施へ大きく一步を踏み出して実現、現在盛大におこなわれています。グローバルな普及発展を考えとき、順位をきめることが意欲を高める最高の方法だということです。普及発達のため不可欠だということです。

ラグビーという遊びを、遊び心を大切に楽しむという視点からまとめましょう。

遊び心という心のゆとりは平素のチーム作りにおけるチームの基本精神・方針が元になって

やしなわれるものです。そして試合で精神を形あるものに具現に勤めるのです。危険なことは絶対にとないし、罰を科せられる反則をしないことを固く決意することも大切です。退場者を絶対にださないだけでなく、その方向でのイエローカードの廃止論が提唱されるのです。それには心構えとそれを高める平素の教育が大切です。そのために指導者の資質向上がまず必要なのが現状です。憲章を守ることからルール研究としなければならないことがたくさんあります。ラグビーは遊びの一つで単なる遊びではありますが、生涯スポーツとして楽しむために、皆で協力して進めなければならないことを確かめましょう。

2010.04.11

西川 義行